

令和3年度 全国学力・学習状況調査
— 鈴鹿市の質問紙調査結果概要 —

質問紙



令和3年11月

鈴鹿市教育委員会事務局教育指導課

目 次

1	基本的生活習慣等	1
2	挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等	2
3	学習習慣，学習環境等	4
4	地域や社会に関わる活動の状況等	7
5	ICT を活用した学習状況	9
6	主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況	12
7	総合的な学習の時間，学級活動，特別の教科道徳	15
8	学校運営，教員の資質向上等	17
9	新型コロナウイルス感染症の影響	19
10	質問紙結果分析からみえる本市の状況	25

本稿の見方

- 質問文は，令和3年度調査を掲載。平成30，31年度とわずかに異なる文言の質問については，同質問と捉え，データを記載。
- 肯定的回答とは，選択肢のうち「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」（または，それに類する選択肢）と回答したそれぞれの割合（小数点第2位四捨五入）の合計を指す。
- 課題とみなした質問項目について，各表の令和3年度の鈴鹿市の結果を□で囲む。□で囲っていないものは，前年度まで課題だったもので，経年変化を見るために，取り上げた。
 - ※肯定的回答の割合が80%未満か，80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。
 - ※質問によっては，実態を把握するにとどめ，課題として取り上げなかった項目もある。
- 児童生徒質問紙と学校質問紙の両方の結果を合わせ見て，校種別に顕著な課題を記載。

1 基本的な生活習慣等

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であつても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 平日のテレビゲームの時間（3時間以上）（児童質問紙5）は、平成29年度より大幅に増加し、全国を上回っている。

<中学校>

- 「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」（生徒質問紙2）は、改善傾向が見られるものの、肯定的回答の割合が80%を下回っており、全国平均との差がある。
- 平日のテレビゲームの時間（3時間以上）（生徒質問紙5）は、平成29年度より大幅に増加し、全国を大幅に上回っている。

小学校

児童質問紙

表1 児童の「基本的な生活習慣等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H29 鈴鹿市	H30/31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム・携帯式のゲーム・携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか（3時間以上）	19.9	—	33.9	29.0	+4.9

中学校

生徒質問紙

表2 生徒の「基本的な生活習慣等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
2	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	70.8	74.0	77.0	79.8	-2.8
R3 質問 番号	質 問	H29 鈴鹿市	H30/31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
5	普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム（コンピュータゲーム・携帯式のゲーム・携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む）をしますか（3時間以上）	23.3	—	42.3	32.3	+10.0

2 挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等

※肯定的回答の割合が 80%未満か, 80%以上であっても全国平均より 5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

＜小学校＞

- 「自分には, よいところがあると思いますか」(児童質問紙6)は, 年々肯定的回答の割合が減少している。
- 「将来の夢や目標を持っていること」(児童質問紙7)・「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」(学校質問紙8)ともに, 課題が見られる。

＜中学校＞

- 「将来の夢や目標を持っていること」(生徒質問紙7)と「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」(学校質問紙8)に差がある。

小学校

児童質問紙

表 3 児童の「挑戦心, 達成感, 規範意識, 自己有用感等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
6	自分には, よいところがあると思いますか	83.9	78.8	73.1	76.9	-3.8
7	将来の夢や目標を持っていますか	83.3	80.5	77.1	80.3	-3.2
13	学校に行くのは楽しいと思いますか	—	82.7	79.9	83.4	-3.5
14	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか【新規】	—	—	66.5	70.3	-3.8
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか【新規】	—	—	67.5	70.1	-2.6

学校質問紙

表 4 「挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
7	児童は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか	90.0	83.3	80.0	88.5	-8.5
8	前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	80.0	86.7	80.0	85.3	-5.3

中学校

生徒質問紙

表 5 生徒の「挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
6	自分には，よいところがあると思いますか	76.3	71.7	77.0	76.2	+0.8
7	将来の夢や目標を持っていますか	68.9	69.5	68.8	68.6	+0.2
13	学校に行くのは楽しいと思いますか	—	79.7	81.1	81.1	0
14	自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表すことができますか【新規】	—	—	77.0	75.2	+1.8
15	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか【新規】	—	—	74.7	74.7	0

学校質問紙

表 6 「挑戦心，達成感，規範意識，自己有用感等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
8	前年度までに，将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	100	90.0	100	97.9	+2.1

3 学習習慣, 学習環境等

※肯定的回答の割合が80%未満か, 80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 児童質問紙17・18・21から, 家庭学習の時間や読書の時間が全国平均に比べて少なくなっている。
- 児童質問紙17が約70%, 児童質問紙18が約60%の肯定的回答と比べて, 学校質問紙85・86 (※課題ではないが比較のため掲載) はともに100%であるため, かなりの差が見られる。

<中学校>

- 生徒質問紙17・18・21から, 家庭学習の時間や読書の時間が全国平均に比べて少なくなっている。
- 「家庭学習の取組として, 家庭での学習方法等を具体的に指導したか」(学校質問紙86) では改善が見られたが, 「家庭学習の課題について, その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしたか」(学校質問紙87) には課題が見られる。

小学校

児童質問紙

表7 児童の「学習習慣, 学習環境等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
17	家で, 自分で計画を立てて勉強をしていますか	65.0	69.3	69.2	74.0	-4.8
18	学校の授業時間以外に, 普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 勉強をしますか(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) (※1時間以上)	60.8	61.8	58.3	62.5	-4.2
21	学校の授業時間以外に, 普段(月~金曜日), 1日当たりどれくらいの時間, 読書をしますか(教科書や参考書, 漫画や雑誌は除く) (※30分以上)	36.3	35.5	33.3	37.4	-4.1
23	新聞を読んでいますか (※週に1回程度以上)	36.8	17.8	12.8	14.8	-2.0

学校質問紙

(※課題ではないが比較のため掲載)

表 8 「学習習慣、学習環境等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
85	前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校 内の教職員で共通理解を図りましたか。(教科共通)	100.0	100.0	100.0	90.6	+9.4
86	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では児童 に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える ようにしましたか (教科共通)	96.6	100.0	100.0	95.5	+4.5
87	前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児 童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の 指導改善や児童の学習改善に生かしましたか(教科共 通) 【新規】	—	—	86.6	89.4	-2.8

中学校**生徒質問紙**

表 9 生徒の「学習習慣、学習環境等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
17	家で、自分で計画を立てて勉強をしていますか	51.8	46.6	59.8	63.5	-3.7
18	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当 たりどれくらいの時間、勉強をしますか(学習塾で勉 強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む) (※1時間以上)	61.9	60.8	65.6	75.9	-10.3
21	学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当 たりどれくらいの時間、読書をしますか(教科書や参 考書、漫画や雑誌は除く) (※30分以上)	25.6	21.7	22.2	28.9	-6.7
23	新聞を読んでいますか (※週に1回程度以上)	28.2	11.8	9.7	10.4	-0.7

学校質問紙

表 10 「学習習慣，学習環境等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
85	前年度までに，家庭学習の課題の課し方について，校 内の教職員で共通理解を図りましたか。（教科共通）	90.0	80.0	80.0	85.5	-5.5
86	前年度までに，家庭学習の取組として，学校では生徒 に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教える ようにしましたか（教科共通）	90.0	80.0	100	91.9	+8.1
87	前年度までに，家庭学習の取組として，学校では，生 徒が行った家庭学習の課題について，その後の教員の 指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか(教科共 通) 【新規】	—	—	70.0	85.4	-15.4

4 地域や社会に関わる活動の状況等

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 「地域の行事に参加しているか」(児童質問紙24)と「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるか」(児童質問紙25)は課題であり、関連性が見られる。

<中学校>

- 「教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っているか」(学校質問紙81)・「保護者や地域との協働による取組は、学校の教育水準の向上に効果があったか」(学校質問紙84)は、年々肯定的回答の割合が減少しているとともに、全国平均との差が大きい。

小学校

児童質問紙

表 11 児童の「地域や社会に関わる活動の状況等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
24	今住んでいる地域の行事に参加していますか	64.9	73.9	61.4	58.1	+3.3
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考える ことがありますか	47.3	51.0	47.4	52.4	-5.0

学校質問紙

表 12 「地域や社会に関わる活動の状況等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
81	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る 取組を行っていますか	83.3	80.0	80.0	85.7	-5.7

中学校

生徒質問紙

表 13 生徒の「地域や社会に関わる活動の状況等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
24	今住んでいる地域の行事に参加していますか	40.4	46.5	44.4	43.7	+0.7
25	地域や社会をよくするために何をすべきかを考える ことがありますか	33.1	34.0	43.7	43.8	-0.1

学校質問紙

表 14 「地域や社会に関わる活動の状況等」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
81	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る 取組を行っていますか	100	90.0	70.0	87.2	-17.2
82	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学 習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの 活動などに参加していますか	100	90.0	90.0	85.3	+4.7
84	(82)の質問にあるような保護者や地域との協働に よる取組は、学校の教育水準の向上に効果がありまし たか	100	90.0	80.0	89.8	-9.8

5 ICT を活用した学習状況

※肯定的回答の割合が 80%未満か、80%以上であっても全国平均より 5 ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 学校質問紙 7 1・7 2・7 3 から、コンピュータなどの ICT 機器を活用した取組の程度について、全国平均との差が大きい。

<中学校>

- 「学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用しているか」（学校質問紙 6 7）・「ICT 機器を活用した教職員と家庭との連絡をどの程度行っているか」（学校質問紙 7 3）は、全国平均との差が大きい。

小学校

児童質問紙

表 15 児童の「ICT を活用した学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
26	5 年生までに受けた授業で、コンピュータなどの ICT をどの程度使用しましたか (※週 1 回以上)	—	35.5	37.5	40.1	-2.6

学校質問紙

表 16 「ICT を活用した学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
64	コンピュータなどの ICT 機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか【新規】	—	—	53.3	39.4	+13.9

66	前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などの ICT を活用した授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか (※週 1 回以上)	80.0	66.7	100	86.6	+13.4
67	教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、児童の状況に応じた指導に活用していますか【新規】	—	—	53.3	43.9	+9.4
71	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童がやりとりする場面【新規】	—	—	23.3	44.7	-21.4
72	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ③児童同士がやりとりする場面【新規】	—	—	20.0	30.1	-10.1
73	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ④教職員と家庭との連絡【新規】	—	—	13.3	39.6	-26.3
74	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ⑤児童が 1 人で活用する場面【新規】	—	—	73.3	74.6	-1.3

中学校

生徒質問紙

表 17 生徒の「ICT を活用した学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
26	1, 2 年生のときに受けた授業で、コンピュータなどの ICT をどの程度使用しましたか (※週 1 回以上)	—	40.0	35.9	33.4	+2.5

学校質問紙

表 18 「ICT を活用した学習状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
64	コンピュータなどの ICT 機器やネットワークの点から、遠隔・オンライン授業を行うための準備ができていますか【新規】	—	—	40.0	39.5	+0.5

66	前年度に、教員が大型提示装置（プロジェクター、電子黒板など）などの ICT を活用した授業を 1 クラス当たりどの程度行いましたか (※週 1 回以上)	60.0	80.0	100	87.8	+12.2
67	教員は、学習履歴（スタディ・ログ）をはじめとした様々な教育データを、生徒の状況に応じた指導に活用していますか【新規】	—	—	10.0	39.1	-29.1
71	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ②教職員と児童がやりとりする場面【新規】	—	—	50.0	41.5	+8.5
72	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ③生徒同士がやりとりする場面【新規】	—	—	30.0	25.8	+4.2
73	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ④教職員と家庭との連絡【新規】	—	—	10.0	43.9	-33.9
74	次のようなコンピュータなどの ICT 機器を活用した取組をどの程度行っていますか ⑤生徒が 1 人で活用する場面【新規】	—	—	70.0	62.6	+7.4

6 主体的・対話的で深い学びの 視点からの授業改善に関する取組状況

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」(児童質問紙32)・「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていたか」(児童質問紙34)が、特に全国平均との差が大きい。
- 学校質問紙29・32・38を筆頭に、課題解決や、自分の考えを深めたり広げたりすること、考えを基に創造したりすることに課題があり、児童質問紙で見られる課題にも関連性がある。

<中学校>

- 「自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたか」(生徒質問紙32)は、全国との差が目立つ。
- 「各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字程度で生徒にまとめさせたことがあるか」(学校質問紙39)が特に全国平均との差が大きく、課題となっている。

小学校

児童質問紙

表19 児童の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
31	5年生までに受けた授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、友達の考え(自分と同じところや違うところ)を受け止めて自分の考えをしっかりと伝えていましたか【新規】	—	—	79.9	82.6	-2.7
32	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	58.0	60.3	57.4	63.5	-6.1

33	5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	74.2	76.6	75.0	78.2	-3.2
34	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめたり、思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか【新規】	—	—	60.3	67.2	-6.9
37	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	75.6	70.6	75.5	78.8	-3.3
38	学習した内容について、分かった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか【新規】	—	—	79.4	78.3	+1.1

学校質問紙

表 20 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
29	授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	83.3	73.4	73.3	85.3	-12.0
30	授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか（前回 H29）	—	—	63.3	68.3	-5.0
31	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか（前回 H29）	—	—	76.7	82.4	-5.7
32	学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。（前回 H29）	—	—	56.7	75.8	-19.1
34	前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか（前回 H29）	—	—	80.0	87.7	-7.7
38	前年度までに、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう過程を重視した学習を、計画的に取り入れましたか【新規】	—	—	60.0	73.1	-13.1
39	前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを800字（400字詰め原稿用紙2枚）程度で児童にまとめさせたことがありましたか【新規】	—	—	66.7	55.4	+11.3

中学校

生徒質問紙

表 21 生徒の「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
32	1, 2 年生のときに受けた授業で, 自分の考えを発表する機会では, 自分の考えがうまく伝わるよう, 資料や文章, 話の組立てなどを工夫して発表していましたか	50.4	53.3	57.7	62.0	-4.3
33	1, 2 年生のときに受けた授業では, 課題の解決に向けて, 自分で考え, 自分から取り組んでいたと思えますか	72.2	75.8	83.0	81.0	+2.0
34	1, 2 年生のときに受けた授業では, 各教科などで学んだことを生かしながら, 自分の考えをまとめたり, 思いや考えをもとに新しいものを作り出したりする活動を行っていましたか【新規】	—	—	60.3	59.5	+0.8
35	1, 2 年生の時に受けた授業は, 自分にあった教え方, 教材, 学習時間などになっていましたか【新規】	—	—	78.0	74.3	+3.7
37	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて, 自分の考えを深めたり, 広げたりすることができていますか	74.0	69.5	78.4	77.8	+0.6
38	学習した内容について, 分かった点や, よく分からなかった点を見直し, 次の学習につなげることができていますか【新規】	—	—	74.8	74.6	+0.2

学校質問紙

表 22 「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
37	前年度までに, 各教科等で身に付けたことを, 様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	90.0	80.0	60.0	72.6	-12.6
39	前年度までに, 各教科等の授業などで, 調べたことや考えたことを 800 字 (400 字詰め原稿用紙 2 枚) 程度で生徒にまとめさせたことがありましたか【新規】	—	—	10.0	40.3	-30.3

7 総合的な学習の時間、 学級活動、特別の教科道徳

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 児童質問紙39と学校質問紙41から、総合的な学習の時間における探究の過程を意識した学習や指導に課題がある。

<中学校>

- 「総合的な学習の時間で、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいるか」（生徒質問紙39）は、前年度から改善が見られるが、全国平均との差はまだ大きい。

小学校

児童質問紙

表 23 児童の「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	—	52.3	59.7	73.0	-13.3
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	—	66.9	66.3	73.4	-7.1
41	学級活動における学校での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	—	70.4	72.0	73.5	-1.5
42	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	—	76.3	79.1	81.1	-2.0

学校質問紙

表 24 「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
41	総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	—	73.4	70.0	90.7	-20.7

中学校

生徒質問紙

表 25 生徒の「総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳」に関する質問における肯定的回答の割合 (%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
39	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	—	47.4	59.1	70.2	-11.1
40	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	—	63.4	70.9	73.9	-3.0
41	学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	—	61.7	67.5	69.8	-2.3

8 学校運営, 教員の資質向上等

※肯定的回答の割合が80%未満か、80%以上であっても全国平均より5ポイント以上下回るものについて課題が大きいとみなす。

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

<小学校>

- 学校質問紙25・26のように、教職員が研究会等に参加することに関する肯定的な回答の割合が年々減少している。
- 「近隣等の中学校と教育課程に関する共通の取組を行ったか」(学校質問紙77)について、小中連携に大きな課題がある。

<中学校>

- 学校質問紙25・26のように、教職員が研究会等に参加することに関する肯定的な回答の割合が年々減少している。
- 「近隣等の小中学校と教育課程に関する共通の取組を行ったか」(学校質問紙77)について、小学校(46.6%)と中学校(70.0%)では捉え方に差がある。
- 「指導計画の作成に当たって、教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか」(学校質問紙20)が、特に全国平均との差が大きく、課題となっている。

小学校

学校質問紙

表 26 「学校運営, 教員の資質向上等」に関する質問における肯定的回答の割合(%)

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
17	学級運営の状況や課題を全教職員の間で共有し、学校として組織的に取り組んでいますか	100	96.6	93.3	98.7	-5.4
24	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか(前回H29)	—	—	76.6	82.4	-5.8
25	個々の教員が、自らの専門性を高めていこうとしている教科・領域等を決めており、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	80.0	76.7	60.0	75.9	-15.9
26	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	100	90.0	73.3	84.6	-11.3
77	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	56.7	43.4	46.6	59.1	-12.5

78	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	46.6	50.0	46.7	57.4	-10.7
79	平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	80.0	63.3	70.0	48.1	+21.9

中学校

学校質問紙

表 27 「学校運営，教員の資質向上等」に関する質問における肯定的回答の割合（％）

R3 質問 番号	質 問	H30 鈴鹿市	H31 鈴鹿市	R3 鈴鹿市	R3 全国 (公立)	R3 全国 平均 との差
18	指導計画の作成に当たっては、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していますか	70.0	80.0	90.0	90.6	-0.6
19	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	100	80.0	90.0	92.7	-2.7
20	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	80.0	70.0	60.0	84.6	-24.6
21	言語活動について、国語科だけではなく、各教科、道徳、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動を通じて、学校全体として取り組んでいますか	100	90.0	93.3	95.6	-2.3
24	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか（前回 H29）	—	—	60.0	77.7	-17.7
25	教員は、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか	90.0	90.0	70.0	75.6	-5.6
26	教職員は、校内外の研修や研究会に参加し、その成果を教育活動に積極的に反映させていますか	100	90.0	70.0	84.5	-14.5
77	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	30.0	50.0	70.0	65.0	+5.0
78	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか	70.0	70.0	50.0	65.1	-15.1
79	平成31年度（令和元年度）の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	70.0	90.0	70.0	48.5	+21.5

9 新型コロナウイルス感染症の影響

質問紙調査結果からみえる顕著な課題

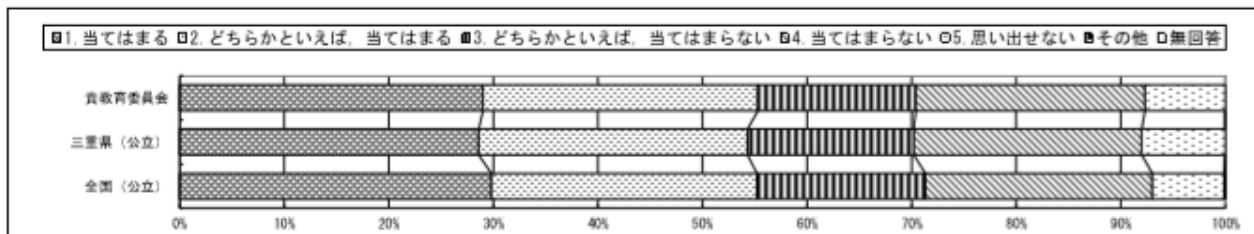
※ 新型コロナウイルス感染症の影響に関する質問は、今年度より新設のため、児童質問紙、生徒質問紙、学校質問紙について、実態を把握するにとどめる。

小学校

児童質問紙

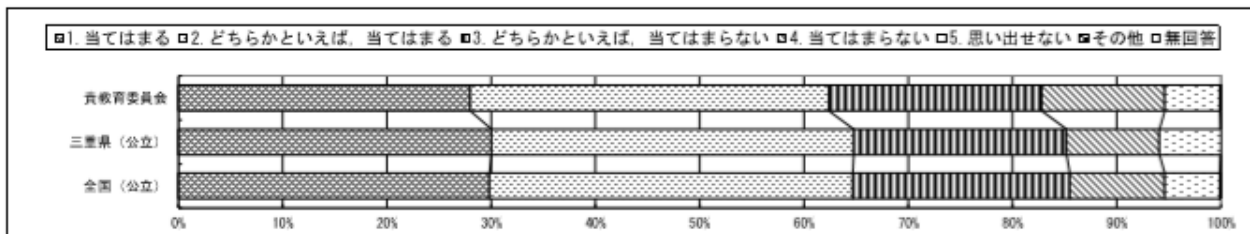
(質問番号64)

質問番号	質問事項										
(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	29.0	26.3	15.1	21.9	7.7					0.0	0.0
三重県(公立)	28.6	25.7	15.9	21.8	8.0					0.0	0.0
全国(公立)	29.8	25.4	16.1	21.7	6.9					0.0	0.1



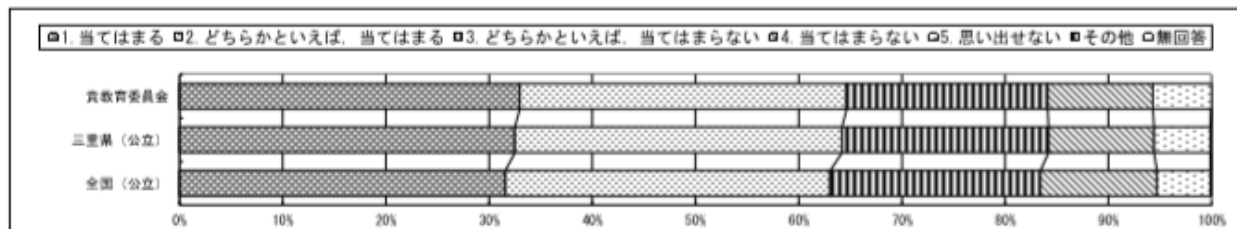
(質問番号65)

質問番号	質問事項										
(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	28.0	34.4	20.4	11.8	5.3					0.1	0.0
三重県(公立)	30.0	34.7	20.4	8.9	5.9					0.0	0.0
全国(公立)	29.8	34.8	20.8	9.1	5.3					0.0	0.1



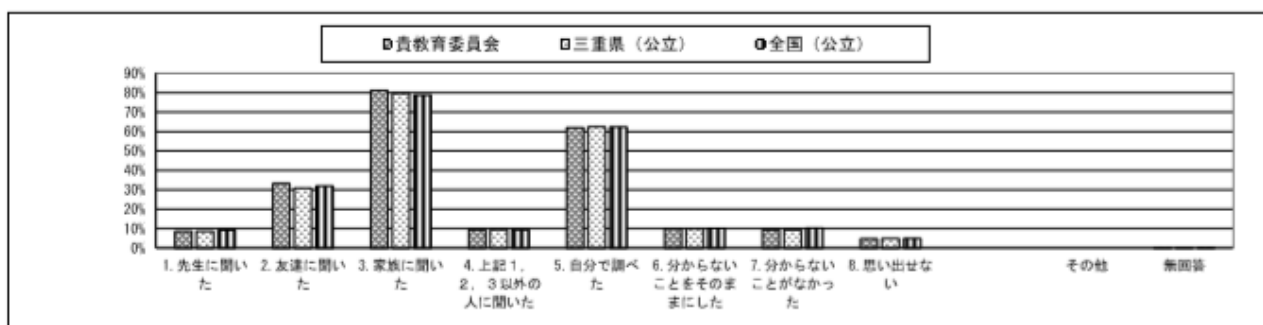
(質問番号 66)

質問番号	質問事項										
(66)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	33.0	31.7	19.5	10.2	5.7					0.0	0.0
三重県(公立)	32.5	31.7	20.0	10.2	5.5					0.0	0.1
全国(公立)	31.6	31.5	20.4	11.3	5.2					0.0	0.1



(質問番号 67)

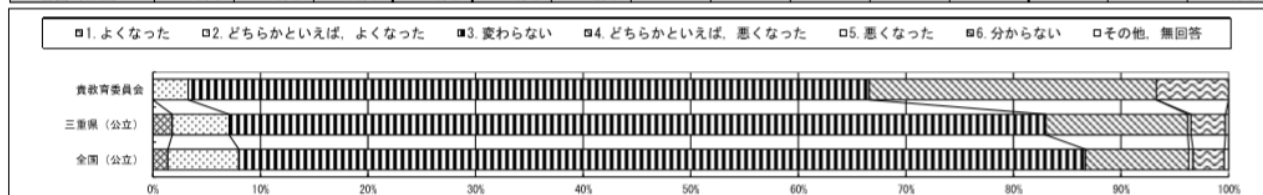
質問番号	質問事項										
(67)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか(複数選択)										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	8.6	33.2	81.1	9.3	62.0	9.9	9.3	4.8		0.0	0.1
三重県(公立)	8.6	30.8	79.6	9.5	62.5	9.9	9.3	5.0		0.0	0.1
全国(公立)	9.2	31.9	78.8	9.4	62.4	10.1	10.3	4.9		0.0	0.2



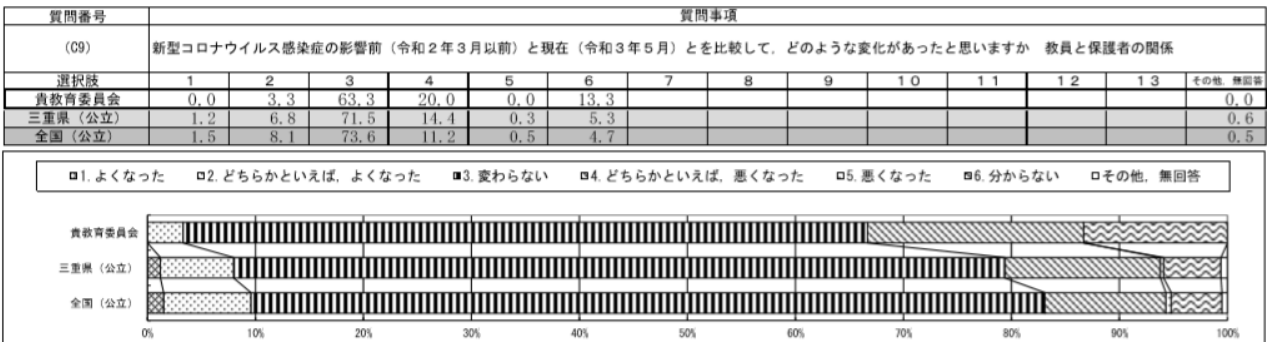
学校質問紙

(質問番号 C7)

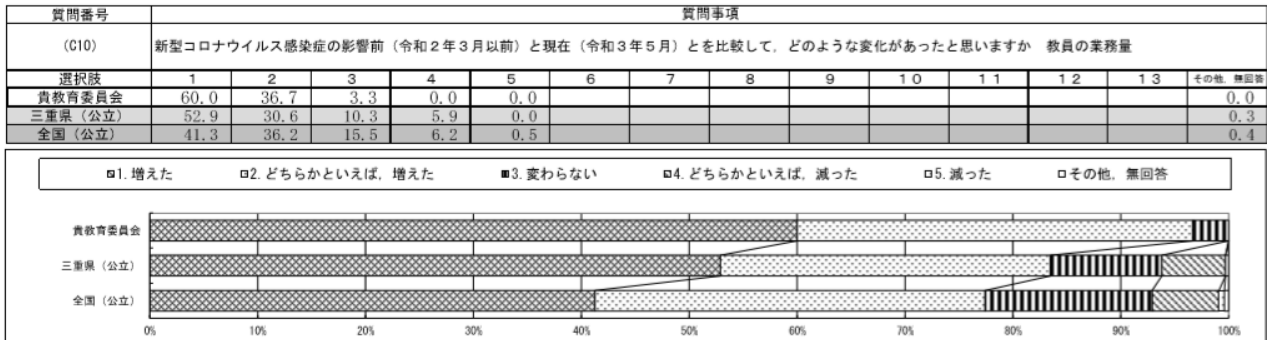
質問番号	質問事項														
(C7)	新型コロナウイルス感染症の影響前(令和2年3月以前)と現在(令和3年5月)とを比較して、どのような変化があったと思いますか 児童同士の関係														
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	その他	無回答
貴教育委員会	0.0	3.3	63.3	26.7	0.0	6.7									0.0
三重県(公立)	1.8	5.3	75.9	13.2	0.3	3.2									0.3
全国(公立)	1.4	6.6	78.7	9.6	0.4	2.9									0.4



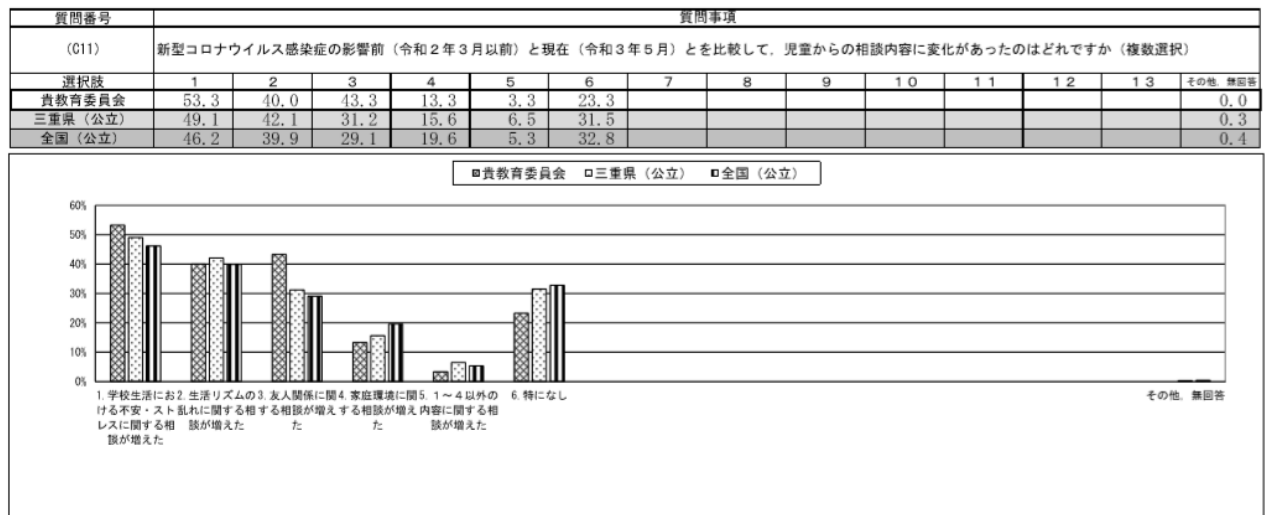
(質問番号 C8)



(質問番号 C10)



(質問番号 C11)

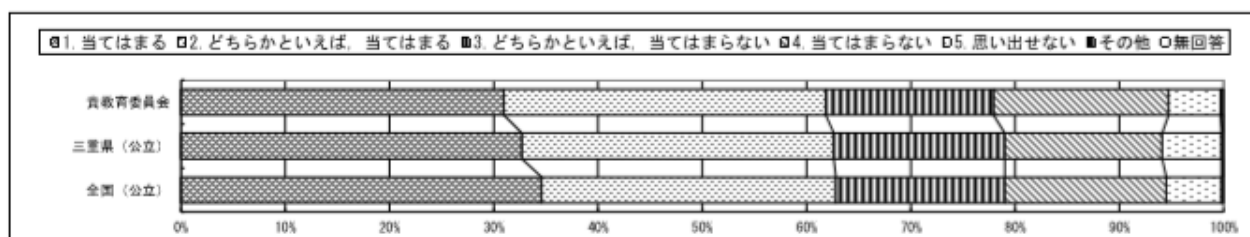


中学校

生徒質問紙

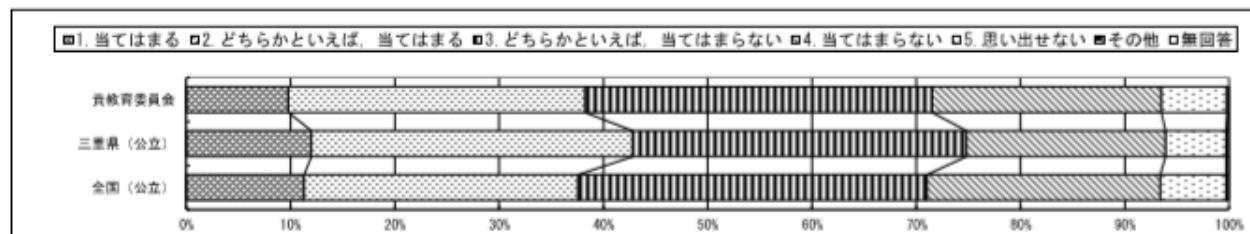
(質問番号 6 4)

質問番号	質問事項										
(64)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、勉強について不安を感じましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	31.0	30.9	16.1	16.8	5.0					0.1	0.2
三重県(公立)	32.7	29.9	16.4	15.1	5.7					0.1	0.1
全国(公立)	34.6	28.2	16.2	15.5	5.3					0.1	0.1



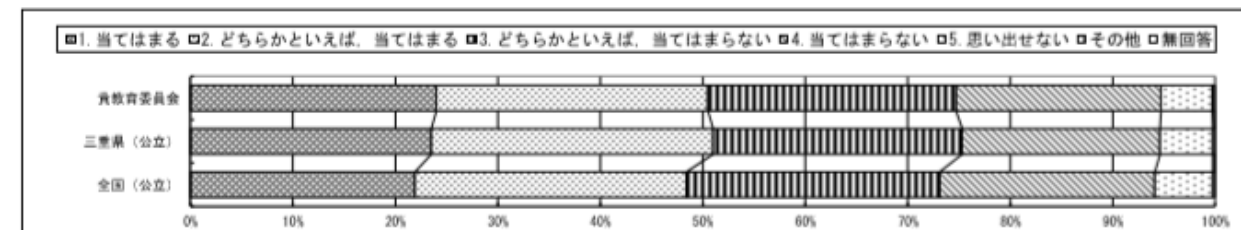
(質問番号 6 5)

質問番号	質問事項										
(65)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	9.8	28.5	33.3	22.0	6.3					0.1	0.1
三重県(公立)	12.0	30.8	32.0	19.1	5.8					0.1	0.2
全国(公立)	11.3	26.3	33.5	22.4	6.3					0.1	0.2



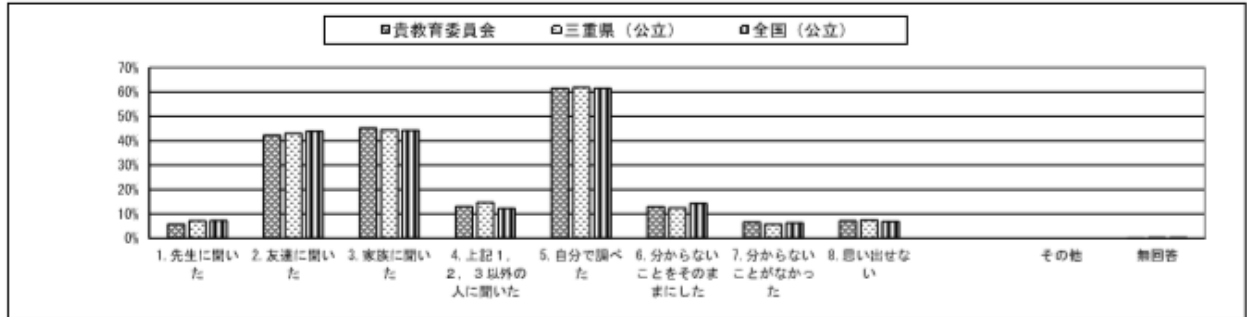
(質問番号 6 6)

質問番号	質問事項										
(66)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、規則正しい生活を送っていましたか										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	24.0	26.5	24.2	20.0	5.0					0.1	0.2
三重県(公立)	23.5	27.5	24.3	19.3	5.2					0.0	0.2
全国(公立)	21.9	26.5	24.7	21.0	5.7					0.0	0.2



(質問番号 67)

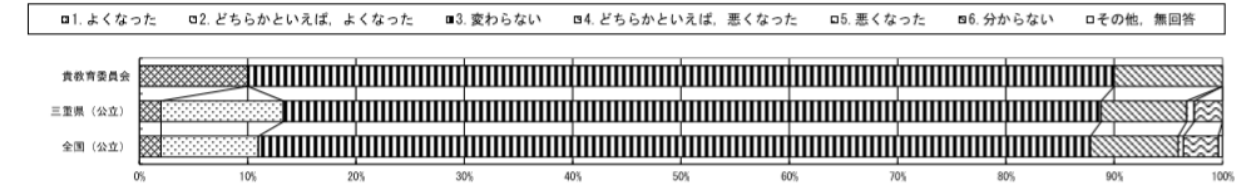
質問番号	質問事項										
(67)	新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、学校からの課題で分からないことがあったとき、どのようにしていましたか（複数選択）										
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	その他	無回答
貴教育委員会	5.8	42.3	45.2	13.0	61.6	12.9	6.5	7.1		0.0	0.1
三重県（公立）	7.1	43.0	44.5	14.6	61.9	12.5	5.8	7.5		0.0	0.2
全国（公立）	7.2	43.9	44.3	12.3	61.6	14.3	6.3	6.9		0.0	0.2



学校質問紙

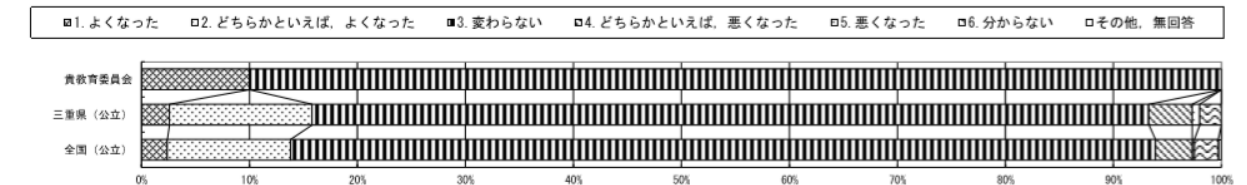
(質問番号 C7)

質問番号	質問事項														
(C7)	新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 生徒同士の関係														
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	その他	無回答
貴教育委員会	10.0	0.0	80.0	10.0	0.0	0.0									0.0
三重県（公立）	2.0	11.3	75.5	7.9	0.7	2.6									0.0
全国（公立）	2.0	9.0	76.9	8.1	0.5	3.2									0.4



(質問番号 C8)

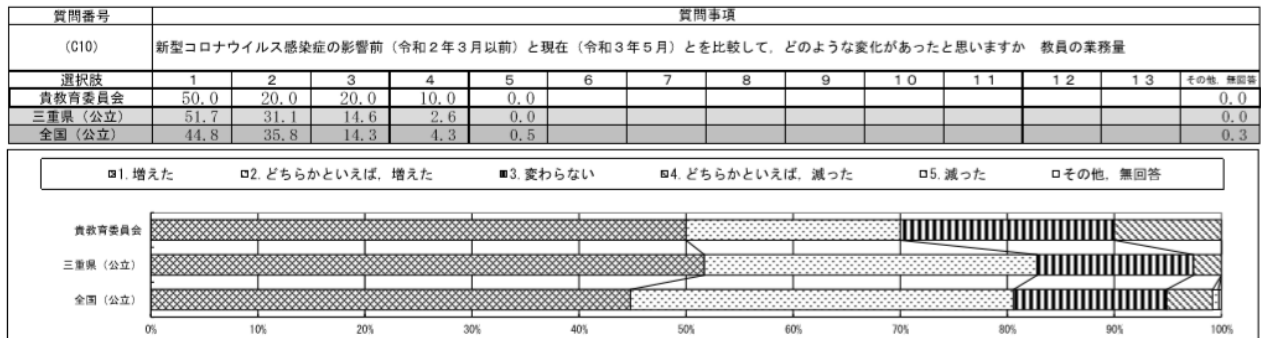
質問番号	質問事項														
(C8)	新型コロナウイルス感染症の影響前（令和2年3月以前）と現在（令和3年5月）とを比較して、どのような変化があったと思いますか 生徒と教員の関係														
選択肢	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	その他	無回答
貴教育委員会	10.0	0.0	90.0	0.0	0.0	0.0									0.0
三重県（公立）	2.6	13.2	77.5	4.0	0.7	2.0									0.0
全国（公立）	2.4	11.4	80.1	3.4	0.2	2.2									0.3



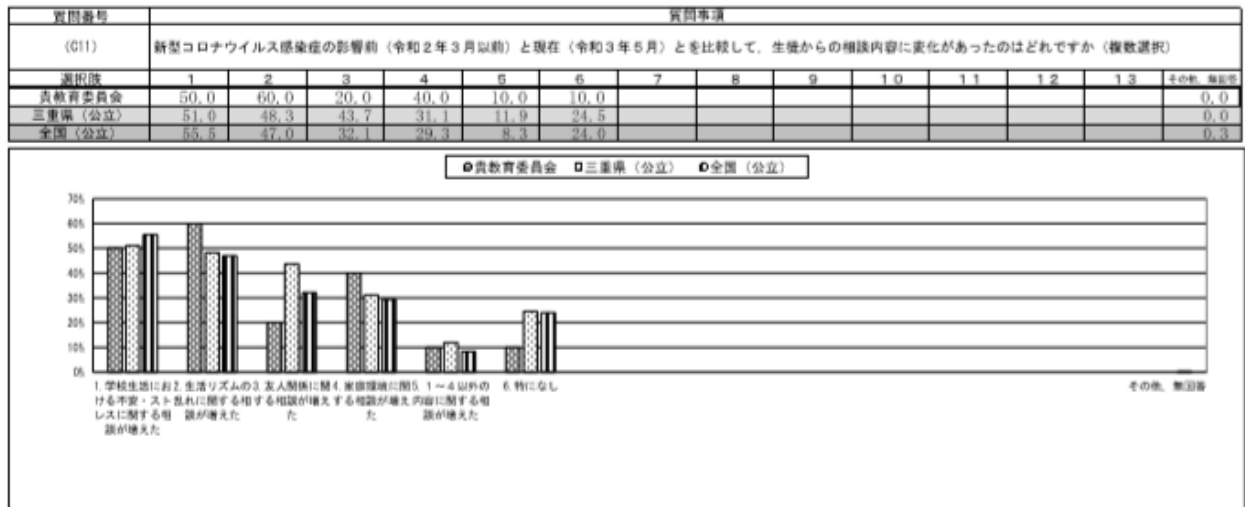
(質問番号 C9)



(質問番号 C10)



(質問番号 C11)



質問紙結果分析からみえる本市の状況

1. 基本的な生活習慣等

平日のテレビゲームの時間（3時間以上）が小中学生ともに、前回の調査（H29）よりも大幅に増加し、全国平均を上回っている。特に、中学生の増加は顕著である。「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」（生徒質問紙2）については、改善傾向が見られるものの、肯定的回答の割合が80%を下回っており、全国平均との差（-2.8）がある。小中学生の基本的な生活習慣等の改善に向けた指導が必要である。

2. 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感等

「学校に行くのは楽しいと思いますか」（児童生徒質問紙13）について、肯定的回答の割合が、小学校では79.9%と、前回の調査より低下している。中学校は、前回の調査より若干増えているものの81.1%と大きな改善とは言えない。

自己有用感については、「自分には、よいところがあると思いますか」（児童生徒質問紙6）が小中学校ともに課題（肯定的回答：小73.1%、中77.0%）となっており、特に小学校では、年々割合が低下（H30：83.9%→H31：78.8%→R3：73.1%）している。一方、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか」（学校質問紙11）は、小中学校ともに肯定的回答の割合が100%となっている。このことから、教師は評価する取組を行っているとは認識しているが、児童生徒の実感にはあまりつながっていないことがわかる。

また、小学校の「将来の夢や目標を持っていますか」（児童質問紙7：肯定的回答77.1%、全国比-3.2）は「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」（学校質問紙8：肯定的回答80.0%、全国比-5.3）との間に若干開きがあり、中学校では、全国平均をわずかに上回ってはいるものの、「将来の夢や目標を持っていますか」（生徒質問紙7：肯定的回答68.8%）と「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか」（学校質問紙8：肯定的回答100%）の回答には差があり、指導が生徒の将来の夢や目標を持つこと

に必ずしもつながっていないことがわかる。

コロナ禍にあり、臨時休業等による例年にない学校生活が続いていることから、児童生徒の背景を把握分析し、居場所となる楽しい学校づくりに継続して取り組むとともに、将来の夢や目標を持つことにつながるよう、教育活動の充実や見直しと指導改善が必要である。

3. 学習習慣、学習環境等

自分で計画を立てて家庭学習をすること（児童生徒質問紙17）、平日1日当たりの勉強量（児童生徒質問紙18）、平日1日当たりの読書量（児童生徒質問紙21）はすべて全国平均を下回っている。「調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか（教科共通）」（小中学校質問紙86）の結果では、児童生徒に家庭学習の方法を具体的に指導することについて100%が肯定的回答をしている。一方、「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、学校では、児童生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童生徒の学習改善に生かしましたか（教科共通）」（学校質問紙87）については、全国を下回り、特に中学校ではその差が顕著である。家庭学習の手引き等の見直しを行い、児童生徒への家庭学習の意義や重要性の伝え方を再考したり、見直しをもって家庭学習に取り組めるような工夫をしたりする必要がある。学校で学んだことをさらに深めたくなるような課題（宿題）の出し方についても学年や教科など学校全体で組織的に検討し取り組むことが望ましい。

児童生徒が読書をする環境づくりには、まわりの大人が読書をする姿のある環境が必要である。学校図書館の活用はもちろんのこと、家庭への啓発を行うとともに、学校における教育活動や授業等で、教師自身と読書の関わりが伝わるような指導を行い、読書の良さを児童生徒が感じる環境づくりが大切である。

4. 地域や社会に関わる活動の状況等

「今住んでいる地域の行事に参加しているか」（生徒質問紙24）と「地域や社会をよく

するために何をすべきかを考えるか」(生徒質問紙25)は、ともに肯定的回答の割合が約44%である一方で、「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動などに参加していますか」(学校質問紙82)の肯定的回答の割合は、小学校100%、中学校90%である。

このことから、児童生徒から地域への関わり方と、保護者や地域から学校への関わり方の間に大きな隔たりがあることがわかる。児童生徒が保護者や地域の人々に支えられ、学校と家庭や地域のかかわりの中で育っていることを実感できるような指導や学習機会の充実が必要である。

5. ICT を活用した学習状況

「ICT機器(コンピュータ、プロジェクター、電子黒板など)の週1回以上の使用頻度」(小中学校質問紙26)は、全国平均と比べてそれほど差はないものの、決して高い数値ではない。「コンピュータなどのICT機器を活用した教職員と家庭との連絡」(小中学校質問紙73)は、全国平均と比べて小学校が-26.3、中学校が-33.9であった。また、「学習履歴(スタディ・ログ)をはじめとした様々な教育データを、児童生徒の状況に応じて指導に活用しているか」(学校質問紙67)は、小学校が全国平均を9.4上回っているのに対し、中学校が-29.1で、小学校と中学校で大きな開きがある。

学習履歴(スタディ・ログ)については、今年度(R3)に配備された一人一台端末(クロームブック)の学習ドリル等を活用することで、教員が児童生徒の解答した問題を分析し、一人ひとりの強み・弱みに対応することができる。スタディ・ログを活用した指導は今後一層期待されるところである。

6. 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」(児童質問紙37:肯定的回答75.5%,全国比-3.3)と「児童は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか」(学校質問紙32:肯定的回答56.7%,全国比-19.1)について、

児童と学校の捉えの差が大きい。

中学校においては、「調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか」（学校質問紙 37：肯定的回答 60.0%）は全国比-12.6 で、教科等横断的な学習指導に改善が必要であることがわかる。

「調査対象学年の児童生徒に対して、前年度までに、各教科等の授業などで、調べたことや考えたことを 800 字（400 字詰め原稿用紙 2 枚）程度で児童生徒にまとめさせたことがありましたか【新規】」（学校質問紙 39）について、小学校では肯定的回答 66.7%、全国比+11.3 であったのに対し、中学校は肯定的回答 10.0%、全国比-30.3 であり、中学校における改善が急務である。

これらのことから、児童生徒と学校のとらえの差が生じる原因について分析して改善を図ることが必要であるとともに、全国比を大きく下回る質問項目が多いことから、学習指導要領が示す学力にかかる確実な理解に基づく授業改善が課題であることがわかる。

7. 総合的な学習の時間、学級活動、特別の教科道徳

「総合的な学習の時間において、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組むこと（児童生徒質問紙 39：肯定的回答：小 59.7%、中 59.1%）」は、前回から数値は上がっているものの、全国平均との差が小学校では-13.3、中学校では-11.1 で大きな開きがある。「総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしているか」（学校質問紙 41）において、小学校では全国比-20.7 である。小学校における総合的な学習の時間に改善が必要であることがわかる。

改善に向けては、探究的な学習における児童生徒の学習の姿を具現化し、「学習方法に関すること」、「自分自身に関すること」、「他者や社会とのかかわりに関すること」の 3 つの視点から、探究のプロセス（総合的な学習の時間を通じた教科等横断的な学び）を意識したカリキュラム・マネジメントが必要である。

8. 学校運営，教員の資質向上等

教職員の研修会等への参加に関すること（学校質問紙 25・26）の肯定的な回答の割合が大幅に減少したのは，新型コロナウイルス感染拡大防止のために研修会が中止されたり，人数が制限されたりして，機会をもつことが難しかったためと推測される。

「指導計画の作成に当たっては，教育内容と教育活動に必要な人的・物的資源等を，地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせているか」（学校質問紙 20）は，肯定的回答が小学校 93.3%であるのに対し，中学校 60.0%となっており，校種間で差がある。特に，中学校の肯定的な回答の割合は年々低下（H30：80.0%→H31：70.0%→R3：60.0%）しており，社会に開かれた教育課程への一層の取組が必要である。

「近隣等の中学校と教育過程に関する共通の取り組みを行ったか」（学校質問紙 77：小 46.6%，中 70.0%）では，肯定的回答に差があり，小学校と中学校で認識に差がある。また，「近隣等の中学校と，授業研究を行うなど，合同して研修を行ったか」（学校質問紙 78）の肯定的回答は小学校が 46.7%全国比-10.7，中学校が 50.0%全国比-15.1 で，改善が必要である。中学校区での連携を深め，中学校区としての課題把握に基づき組織的に取り組むことが必要である。